

たばこがん 国内評価のまとめ

「科学的根拠に基づく発がん性・がん予防効果の評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究」班 での評価の方法 (研究班 URL http://epi.ncc.go.jp/can_prev/)

【背景・概略】

- ・海外のがんリスク・予防評価の総括 (IARC Monograph, IARC Handbook, WHO/FAO 2003, WCRF/AIRC 2007) では必ずしもそのまま日本人に適用できないため、日本人を対象とした疫学研究を収集し、日本人に適したがん予防ガイドラインを提言する。(※海外の評価や動物実験・メカニズム研究による裏付けも考慮に入れる)
- ・ターゲットは 喫煙、飲酒、BMI、感染、食事要因、社会学的要因など。

【方法】

- 1) エビデンス収集: 米国国立図書館のデータベース PubMed または医中誌を用いて、
 - i) 要因とがん死亡またはがん罹患を結果として分析した疫学研究
 - ii) 日本に住んでいる日本人を対象にした研究
 の各条件を満たす文献を検索し、テーブルにまとめる (エビデンステーブル)。
- 2) 結果のサマリー: これらの文献を要約する共通基準 (表 1) として、RR の大きさと統計学的有意性から関連の強さを 4 つに分類。

表 1 関連の強さに関する評価基準

関連の強さ	定義	統計学的有意性	表記
Strong	RR<0.5またはRR>2.0	SS	↑↑↑または↓↓↓
Moderate	RR<0.5またはRR>2.0 1.5<RR≤2.0 0.5≤RR<0.67	NS SS SS	↑↑または↓↓
Weak	1.5<RR≤2.0 0.5≤RR<0.67 0.67≤RR≤1.5	NS NS SS	↑または↓
No association	0.67≤RR≤1.5	NS	—

RR : 相対危険度、SS : 統計学的に有意、NS : 統計学的有意性なし

この基準を用いてエビデンステーブルを summarize する (サマリーテーブル)。

- 3) 判定 : サマリーテーブルに基づき、疫学研究での評価を行う。必要に応じ、刊行論文メタ解析や、コホートプール解析を行い、統合値を算出する。海外での評価や生物学的裏付けを確認後、最終判定を行う。

表 2. 科学的根拠としての信頼性の強さ<WHO/FAO 2003 の基準を準用>

Convincing (確実)	疫学研究の結果が一致していて、逆の結果はほとんどない。相当数の研究がある。なぜそうなるのか生物学的な説明が可能である。
Probable (ほぼ確実)	疫学研究の結果がかなり一致してはいるが、その方法に欠点 (研究期間が短い、研究数が少ない、対象者数が少ない、追跡が不完全など) があつたり、逆の結果も複数あつたりするために決定的ではない。
Possible (可能性あり)	研究は症例対照または横断研究に限られる。観察型の研究の数が十分でない。疫学研究以外の、臨床研究や実験結果などからは支持される。確認のために、もっと多くの疫学研究が実施され、その理由が生物学的に説明される必要がある。
Insufficient (データ不十分)	2、3 の不確実な研究があるにとどまる。確認のために、もっと信頼性の高い方法で研究が実施される必要がある。

たばこ(能動喫煙)とがん 評価のまとめ

海外評価		国内研究評価(がん予防研究班)		検討会報告書執筆案
IARC(2012) a)	SG(2004, 2014) b)		評価(201507時点)	
		全がん	確実	なし(ただし、がんの結果総括と方法記載予定)
Sufficient	Level1	肺がん	確実	○
Sufficient	Level1*	肝がん	確実*	○
Sufficient	Level1	胃がん	確実	○
Sufficient*	Level1*	大腸がん	可能性あり	○
		・結腸	データ不十分	
		・直腸	可能性あり	
Limited*	Level2*	乳がん	可能性あり	○
Sufficient	Level1	食道がん	確実	○
Sufficient	Level1	膵がん	確実	○
	Level4	前立腺がん	データ不十分	○
Sufficient	Level1	子宮頸がん	確実	○
Suggesting lack of carcinogenicity (閉経後)	Level1 (閉経後において下げることが確実)	子宮体がん	データ不十分	○
Sufficient (mucinous)*	Level3	卵巣がん	データ不十分	○
Sufficient	Level1	頭頸部がん	確実	○
Sufficient	Level1	膀胱・尿管・腎	確実	○
Sufficient	Level1	急性骨髄性白血病	進捗中	
Suggesting lack of carcinogenicity		甲状腺		
	Level4	脳(成人)		

a) Personal Habits and Indoor Combustions. IARC Monograph 100e (2012). ヒト研究のサマリーは2009 Lancet Oncol

b) 2014 Surgeon General's Report: The Health Consequences of Smoking—50 Years of Progress; 2004 Surgeon General's Report—The Health Consequences of Smoking

c) 「科学的根拠に基づく発がん性・がん予防効果の評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究」班 http://epi.ncc.go.jp/can_prev/

* Updateされたところ